

ISSチャレンジを支える会作成

全学年対象の自由参加型校内研究活動「ISSチャレンジ」についての情報を生徒目線でお届けします！

ISSチャレンジって？

部門

ISSチャレンジ

アカデミック型

ソーシャル
アクション型

個人またはグループで、アカデミック型とソーシャルアクション型の2部門で、自分の興味や関心に応じた探究に取り組みます。

受けられるサポート

教員による
指導

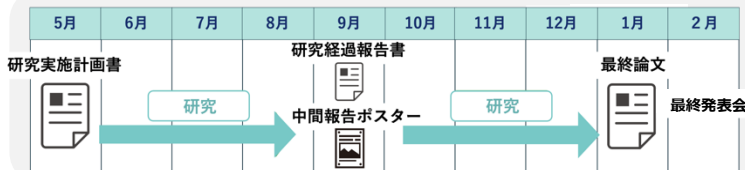
研究に必要な
物的支援

卒業生による
論文添削

外部発表会の
機会紹介

テーマに合わせて教員がメンター・サブメンターとしてつき、研究に必要な機材や材料を学校が支援。最終論文の添削・アドバイスを受けられます。

年間スケジュール



ファイナリスト・セミファイナリストが1年の最後に選ばれて校内で発表をします。

外部審査員から専門的なコメントや質問をいただけます！



昨年度のISSチャレンジ入賞チームの皆さんへインタビュー！

ヘビイチゴを5年間研究！



ヘビイチゴに関する研究を5年間継続して研究しました。その中で、論文やポスターを作成する力が向上したと感じています。さらに、発表会で他の研究を参考にしながら、より伝わりやすい見せ方を工夫する力も身につけることができました。また、研究を通して仲間とのつながりが生まれ、普段関わる機会の少ない人とも交流することで、新しい考え方や視点に触れ、視野を広げることができました。

地域をつなぐマッチング研究



地域に住んでいる若者と地域ボランティアをつなげるプログラムの最適化の研究をしました。経済学分野のマッチングアルゴリズムはプログラムで苦労しましたが、次第に慣れて苦手を克服しました。充実した研究活動のおかげで成長でき、今後もより良いものを目指し研究し続けます。ISSチャレンジの参加を考える上でまずやってみることで、先行研究を大切にすることをお勧めします。

ねるねるねるねで社会問題解決へ



貧困地域の課題とも関係がある教育と栄養、知育菓子「ねるねるねるね」の研究を1年から続けていますが、始まりは先輩の研究の姿や科学実験への憧れでした。学校、大学、クラシエ本社なども訪問し、食品開発と社会問題解決に向けてグループでディスカッションを重ねています。ISSチャレンジは研究の場であると同時に、仲間と出会い、互いに成長できる場所でもあります。

ペンギンをアクティブに研究！



1、2年時は農業、3年からはペンギンをテーマにして研究しています。きっかけは幼少期からの興味と絶滅危惧種対策への関心で、水族館等にも行かれ、ペンギンに関する大会にも参加でき、長期に楽しんで取り組んでいます。インタビュー調査を通してタスク管理能力など様々なスキルがあがり、人脈も広がり成長を実感しています。小さなきっかけでもぜひ行動を起こしてみてください。

コラム: ISSチャレンジを支える会について

「ISSチャレンジ」の活動を生徒の立場からサポートを行う団体です。特に研究内容の発表の場や研究者同士の交流の場を作ることに力を入れて活動を行っています。この通信もこの会のメンバーが書いています！

代表者の方へインタビュー！



先輩方の取り組んでいる研究内容を、後輩がもっと気軽に知ることができる環境をつくりたいと考えました。そのために、ISSチャレンジの研究内容や活動をオープンに共有できる場が必要だと感じて立ち上げた団体です。これからは、生徒同士の交流をさらに活発にしていくために、まず団体内部での交流を深めていきたいと考えています！